

会議記録

会 議 名	令和5年度（2023年度）第1回八王子市博物館協議会				
開 催 日 時	令和5年（2023年）5月26日（金）午後6時00分～午後8時10分				
開 催 場 所	コニカミノルタサイエンスドーム（八王子市こども科学館）2階・講座室				
出 席 者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">委 員</td> <td>大畑静佳、大森映子、長田晶、鎌倉佐保、菊池由紀子、國方則和、進藤哲央、馬場憲一、深澤靖幸、山中将一（敬称略・50音順）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">事 務 局</td> <td>飯塚由則こども科学館長、鈴木正生文化財課課長補佐兼主査、高野淳文化財課課長補佐兼主査、石田勇次こども科学館主査、森融こども科学館主任</td> </tr> </table>	委 員	大畑静佳、大森映子、長田晶、鎌倉佐保、菊池由紀子、國方則和、進藤哲央、馬場憲一、深澤靖幸、山中将一（敬称略・50音順）	事 務 局	飯塚由則こども科学館長、鈴木正生文化財課課長補佐兼主査、高野淳文化財課課長補佐兼主査、石田勇次こども科学館主査、森融こども科学館主任
委 員	大畑静佳、大森映子、長田晶、鎌倉佐保、菊池由紀子、國方則和、進藤哲央、馬場憲一、深澤靖幸、山中将一（敬称略・50音順）				
事 務 局	飯塚由則こども科学館長、鈴木正生文化財課課長補佐兼主査、高野淳文化財課課長補佐兼主査、石田勇次こども科学館主査、森融こども科学館主任				
欠 席 者	<p>（委 員）なし</p> <p>（事務局）叶清文化財課長</p>				
議 題	<p>(1) 令和4年度（2022年度）八王子市こども科学館及び郷土資料館事業実施状況・施設評価について</p> <p>(2)その他</p>				
公開・非公開の別	公開				
傍 聴 人 の 数	0名				
配 付 資 料 等	<p>1.会議次第</p> <p>2.【資料1】 令和4年度（2022年度）こども科学館事業実施状況</p> <p>3.【資料2】 令和4年度（2022年度）施設評価（こども科学館）</p> <p>4.【資料3】 令和4年度（2022年度）郷土資料館事業実施状況</p> <p>5.【資料4】 令和4年度（2022年度）施設評価（郷土資料館）</p> <p>6.【資料5】 令和4年度（2022年度）八王子「宇宙の学校」その他イベントの実施結果について</p> <p>7.【資料6】 八王子駅南口集いの拠点整備について</p> <p>8.【資料7】 八王子ミライテラス 市民ワークショップについて</p>				

<p>会議の内容 (要点記録)</p>	<p>【開会】 (事務局職員による開会の宣言・挨拶・人事異動報告)</p> <p>事務局 会議の議長は、八王子市博物館協会条例第5条第1項の規定により会長と定められておりますので、鎌倉会長に進行をお願いします。</p> <p>鎌倉会長 本日の会議には、10名の委員全員が出席されておりますので、八王子市博物館協議会条例第5条第2項の規定に基づき会議は成立しています。</p> <p>【議題】</p> <p>1. 令和4年度(2022年度)八王子市こども科学館及び郷土資料館事業実施状況・施設評価について</p> <p>鎌倉会長 まず議題(1)について、事務局から説明願います。</p> <p style="text-align: center;">— 事務局職員による説明 —</p> <p>鎌倉会長 説明が終わりました。御質問等はいかがですか。</p> <p>山中委員 新型コロナウイルス感染症の対応が大分緩和されたことで、こども科学館での団体受入の見通しはどのようなのか教えていただきたい。</p> <p>事務局 午前中が団体専用で、令和4年度は、学校、保育園、幼稚園でかなりの日数来館していただいています。令和2年度、3年度は中止しておりました。</p> <p>山中委員 学校現場では「再開しています」とはっきり示されていないので、もし完全に再開しているのであれば、正式に周知するようにしていただきたい。</p> <p>事務局 今年1月頃、全ての学校に案内を送らせていただいています。</p> <p>山中委員 通常どおりに戻ったと解釈していいですね。</p> <p>事務局 ただ、こども科学館でバスで学校までの送迎を行っているのは、今は小学4年生だけです。コロナ前はもう少し幅広く対応していましたが、財政との関係もあって、今年度も含めて4年生だけということになっています。</p> <p>馬場委員 郷土資料館ですが、いろんな事業を努力されてやっているというのはよく分かったんです。基本的なことですが、入館者数が3万8,000人ぐらいですか。これは、はちくはくと散田町の郷土資料館事務室を合わせて、今は郷土資料館という扱いをしているのですか。ここにカウントされている数字は、2施設分と理解してよろしいですか。</p>
-------------------------	--

事務局	施設としては、散田町の事務室とサザンスカイタワーの展示場とを合わせて郷土資料館ということです。入館者数は、はちやくの分のみです。
馬場委員	入館者数というのは、はちやくに来ている人数ですね。ですが6ページを見ると、いろいろな事業をトータルで見ると5万人ぐらい来ている。入館者と事業の人数というのはどういう線引きをされているのか。
事務局	これは企画展やイベントごとの人数のカウントができなくて、開催している会期中の入館者数の合計で取っています。企画展の会期が重なったりするとダブルでカウントしますので、年間入館者数より多い数が合計として出るということです。
馬場委員	そうすると、入館者数というのは企画展をやっているときの人数も含めたほうがいいわけですね。企画展を見に来た入館者というのはその中ではじかれているわけですか。実際には5万人ぐらい来ているということなのか。
事務局	来ておりません。純粋な入館者数が、3万8,696人ということになります。
馬場委員	施設評価について確認ですが、評価で5や3がついているけれど、これは郷土資料館でつけたものですか。自己評価とともに外部評価とあるが、「博物館協議会委員に公開をし、頂戴した意見を外部評価として実施している」ということは、もう既にやったということですか。
事務局	資料4でお示ししているのは、我々目線で評価をした結果がこういうことになっておりますと御報告しましたけれども、それに対しまして委員の皆様方から意見を承る場を設けていると。それをもって外部評価とさせていただいているということです。
馬場委員	ここだけはこの協議会で決めるというか、意見を聴取して評価をするということですか。
鎌倉会長	これは、博物館協議会で外部評価を受けて、それに則した博物館運営をしているかどうかという評価ですね。
馬場委員	他で行っているような、全部の項目に対して外部評価をしてA、B、Cを付ける方法とは違うんだ。外部評価を受けているかどうかという自己評価ですね。基本的にはこの評価項目というのは毎年同じようなものですね。
事務局	評価項目は毎年同じです。
馬場委員	この施設評価は、どこかに公開されるのですか。どういうふうに生かされているのですか。
事務局	施設評価は、会議記録と一緒に公開します。どなたでも

	御覧いただけます。
馬場委員	市のホームページにアクセスすれば見られるということですね。
事務局	そうです。
長田委員	郷土資料館についての感想ですが、よくあの狭いスペースでこれだけのことを常時やっていてすごいなど。中央のスペースを小まめに切り替えて、お客さんを飽きさせない工夫をしているなどというのが私の感想です。令和5年度もコロナ後ということで変わっていくと思いますが、今後もぜひ頑張ってください。
深澤委員	私も同じく、はちくはとてもよく企画展で回されているなどという全く同じ意見です。それと同時に、資料のつくり方で2点ほど気になるところがあります。 まず入館者数。こども科学館もそうですが、コロナ禍の時点と比較してもしようがないので、せめて令和3年度、若しくは元年度と比較して現状がどうなのかというのは知りたいところだと思います。どこまで回復しているのかというバロメーターにもなると思うので、今後も含めて用心されたほうがいいという感想です。 もう一つは、馬場委員からもありました施設評価です。数値的評価で「前年度の実績値を目標値に設定」となっていますが、やはりコロナ禍の中でこれを目標値にすることが適切かどうかは、全然レベルが違う話だと思います。目標値を出すとき、過去5年間の平均を出してそれを目標値にするか、プラス何パーセント乗せるか、毎年どういう目標値を出して、それに対して達成できたかできなかったかというのが指標になると私は感じます。そういう意味で、目標値を前年としてしまうと、前年がよかったときは次の年苦しかったねという感想にしかならないし、コロナも含めて前年が悪かったときは、ああよかったよかったという感想にしかならないと思うんですね。そこは改善されたほうがよいというのが個人的な感想ですが、全庁的なシステムだということであればそれはしようがないのかなと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	特に全庁で決まったものではありません。確かにこのコロナ禍での3年という点は、今までの方法ですとなかなか適切に評価できない部分もあると思いますので、その方法等は検討させてください。
深澤委員	コロナを外したその前の5か年や3か年の平均などが普通かと。

事務局	<p>こども科学館の入館者数の推移ですが、令和2年、3年、4年となるとコロナ禍の最中です。実際令和元年が8万人ぐらい、その前の平成30年度が9万人ぐらいです。それに比べると令和4年度が約5万人で、まだ回復とはいきませんが、今年度は出足がよくて、4月で4,500人ぐらい、令和4年度の4月が2,000人ぐらいということを考えますと、かなり出足はいいかと。今後も企画に力を入れて、コロナ前の8万人、9万人までいけるように頑張っていきたいと思っております。</p>
鎌倉会長	<p>他館では、コロナの期間を抜いた形で平均を出すようにしているところが多かったように思います。</p>
深澤委員	<p>私のところは、さじ加減はありますが過去5か年の平均プラス何%という形で、コロナの影響は外すように考えて、5か年まで遡るとかなり古くなってしまいますので3か年で出そうとか、そんな感じで組み立てています。</p>
鎌倉会長	<p>ありがとうございます。この点は来年度に向けて検討していただければと思います。</p>
進藤委員	<p>評価に関してですが、現段階では入館者数は多ければ多いほどいいという価値観で進めていけばいいと思いますが、来館者数が増えてくると、密になり過ぎて満足度が下がっていくという状況も出てくると思うので、将来的にはその辺も見越して適切な人数の目標というのが必要になるかなというのが一つ、印象として持ったところです。</p> <p>それと同様、郷土資料館の「展示の量の満足度」について、満足度は高ければ高いほどいいとは思いますが、現状、既に「多過ぎる」と「少な過ぎる」が結構な数があるということは、今後増やしても減らしても、これ以上満足感を上げるのは難しいのでは、という印象も持っています。ですので、ここの目標値の設定というのも、一度見直しが必要ではないかという気がします。</p>
大森委員	<p>郷土資料館は移転の件など体制的に難しい問題もあったと思いますが、人を集める成果としては、大きな形になっているのだと思います。実際、リピーターはどうですか。恐らく前の郷土資料館と比べると、何度も足を運ぶ人が多くなっているのではというイメージですが、そんなところもある程度分かると面白いと思います。やはり、はちやくに行ってみて非常に面白いものがあった、それでは次の企画にも行ってみようという印象を持った方が多いと、これは成功だという感じがするんです。一度行って、それで終わりにならないためには、やはりいい企画を次々と出して</p>

	<p>いく。これは非常に御苦労も多いですが、そんなところが鍵になってくるかと思います。</p> <p>現在行っている企画展示、これにはどんな感触をお持ちですか。大分人気があるとか、満足度はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>やはり期待して来られる方が多いです。まだアンケートの集計ができていないのですが、展示場の関係で資料も少なく、現物が置けずにパネルにせざるを得ないなどで、大満足だという様子はなかなか見受けられない感じです。どちらかという、2週間だけの開催でしたがNHKの等身大パネルのほうが人気だったかと。</p>
事務局	<p>補足ですが、昨年度のはちあく来館者アンケートの結果では、初めてという方が8割弱の76.4%。2回目となりますと9.9%。3～5回ですと7.5%。6回以上で5.7%となっております。ですので、リピーターという意味からすると、数値は低いなりに中にはコアなお客様もいらっしゃって、ある程度満足度が得られているのかなという点が伺えるというところがございます。</p>
事務局	<p>上野町の郷土資料館では、歴史好きな高齢の方、常連の方がよく訪れていましたが、はちあくでは、もう10回以上来ているというお子様連れの御家族がいらっしゃるなど、幅広い年齢層の方に楽しんでいただいております。</p>
國方副会長	<p>二つに分けてお話をしますが、まずは宇宙の学校の進め方は、非常に分かりやすく、ありがとうございました。八王子学園では、生徒さんがお手伝いに来られたと。</p>
事務局	<p>そうです。中学校の生徒さんが、ボランティアとして工作の補助で来ていただきました。</p>
國方副会長	<p>参加された生徒さんがどう感じたのか、また、これから先どういうふうに生かされるのか、もし声があれば聞かせてほしいと思いました。</p> <p>もう1件、こども科学館の施設評価で、プラネタリウムの満足度が目標に届かなかったというお話でしたが、これについてはどう分析されますか。</p>
事務局	<p>はっきりした要因は分からないですが、この目標値は前3年度の実績値の平均ということで、コロナ禍の令和2年度、3年度は、プラネタリウムの定員をかなり絞っていました。多分、本当にプラネタリウムが好きな方に来ていただいた結果、満足度が高くなった。そして、令和4年度はある程度制限はありましたが、入館も通常の展示も緩和されて復活させていますので、展示目的で来て、プラネタリウムもやっているから見ようという方の、その意識の違い</p>

で多少満足度の数値が下がっているのではと思います。

國方副会長 先ほども指標の立て方についていろいろお話がありました。満足度も大事な指標だと思うので、慎重に伝えてほしい。満足度の数値がお客様の期待に届いていないものの傾向として出ているとすると、対策をしていかないといけないと思うので、そこはシビアに見てほしい。また、どの時点と比較するかという話は、以前もこども科学館がリニューアルしたときにありました。その際に、こんな話をしているはず。要は、閉館しているときと比較するのではなく、その前と比較するべきじゃないかと。指標の立て方は継続して検討してほしいと思いました。

それと郷土資料館の件でうれしいお知らせですが、私の知人の科学博物館の人が、今年のゴールデンウィークに、高尾山に行った帰りにはちはくに寄られた。そのときの感想を聞いたのですが、御城印をいただく際に「何か八王子城に行かれたことを確認できるものはありますか」と聞かれたと。そこで写真を見せて、実際に行ったからもらえんだと、そう感じたのが非常によかったとおっしゃっていた。これは非常にうれしいと思いました。そして一番気に入った展示は、滝山城と八王子城の地形模型に画像を投影している装置でしたと。これが非常によかったということで、聞いていてすごくうれしかった。

馬場委員 私は、学校教育との連携に非常に興味を持っています。資料を見る限り、はちはくもこどもの科学館も、非常によくやっていることが分かったのですが、やはり気になることが一つだけあって、障害者の問題はどういうふうに考えているのか。つまり今、多様性の時代の中で各事業は健常者の方を対象としていると思いますが、特別支援学級や知的障害者の方に対してはどうしているのか。

障害がある方の学習権に関して、八王子盲学校に通っている子供たちはどういった教育を受けているか調べたら、普通の学習をやっている。その中で特に興味があった歴史の授業はどういうふうに行っているのか見たけど、普通の授業をやっている。例えば、はちはくに来たときにどういう対応をするのか。こども科学館のプラネタリウムは非常にいい施設だと思うけど、そこではどう対応しているのか。そういう視点で評価するといいと思います。盲学校は90年ぐらいの歴史があるところで、西八王子駅は学校が近くだから、私も利用していて、ああ、こんなに大勢いるのかと思うこともある。そういう点も、ぜひ加味して評価をし

	<p>いただけるといいと思います。</p> <p>事務局 こども科学館ですと、資料1の実施状況の中で、障害者の方と付き添いの方1名は無料で入館していただいています。また、学校に関して、特別支援学級についても、午前中団体入館でプラネタリウムを見ていただいています。評価はないですが、実績としては放課後子ども教室などもあります。</p>
馬場委員	特別なプログラムを考えるのもいいと思います。
事務局	<p>上野町の郷土資料館は盲学校から近く、毎年のように来ていただいていた。やはり展示物がケースの中に入ってしまうと、紹介もなかなか難しいところがありますが。ただ、はちくではそういうところは意識して、社会的包摂、インクルーシブという言葉もある中で、八王子城の立体投影模型などは、実際その模型を触っていただいたり、ポケット学芸員を使って、一緒に展示ケースまで案内して、そこでその音声解説を聞いていただき、今、こういう展示をしています、という案内的なことは、数は少ないですが対応しております。</p>
馬場委員	<p>もう10年ぐらい前、八王子市郷土資料館を紹介させていただいたことがあって、以前の資料館は入り口が階段で、インターホンがありましたね。そういうのはほかで見たことがなかったから、いい取組だって紹介したんです。今後、新しい博物館でもそういう配慮をぜひやっていただきたいと思います。</p>
事務局	ありがとうございます。検討いたします。
鎌倉会長	もし評価に加えられるとしたら、多様性への配慮などの項目があると、ほかへのいい手本になるかと思いたいで、御検討いただければと思います。
大畑委員	インクルーシブの取組等、資料には掲載のない実績があると聞いて、大変すばらしいことだと思いました。不登校の子も増えている中で、フリースクールなどとの連携の実績はあるのでしょうか。
事務局	こども科学館側からというよりは、フリースクールの方からいらっしゃるということです。
事務局	郷土資料館では実際には捉えきれませんが、それほど数は多くないと思っております。ただ、私たちの事務室は教育センター内にありますので、不登校の相談に訪れる方などの目につきやすいように、はちくのリフレットを置いております。
長田委員	先ほどのプラネタリウムの満足度に関して、番組を見て

	<p>いてちょっと気になったことですが、投影の映像の声は問題ないのですが、解説の音声は、女性るときでも男性るときでも私には大変聞きづらくて、大人がこれだけ聞きづらくと子供はもっと聞きづらいのかなと思うことが何度かございました。音量を上げたほうがいいのか、それとも解説者の声量を上げたほうがいいのか、どうしたら聞きやすくなるのか、そこは一度現場で見ただけであればと思いました。特に暗くなって星が出ますので、解説中、興味ある内容がみんな違いますので、面白いけれど日によって聞きづらいなど、よく感じていました。</p>
事務局	受託業者と相談しながら改善していきたいと思います。
鎌倉会長	私からもよろしいでしょうか。
	施設評価の項目の中で、桑都ツアーズが大変好評であったとのことですが、実際に現地に行くと、その成果が見られると非常に楽しいだろうと思うのですが、参加者の世代、年齢層、どういう方が多かったのかわかりますか。
事務局	アンケートは取っていないのですが、比較的満遍なく、若い方からお年寄りまで参加されたという感覚です。
鎌倉会長	年齢層は分からないかもしれないけれど、実際に足を運ぶというのは、どの世代でもすごく楽しくて、こういうイベントが連続、継続してあると、また行ってみようということにもつながると思います。今年度、来年度と継続する楽しい企画をしていただけるといいと思います。
菊池委員	桑都ツアーズもそうですが、まち歩きのような、地域の暮らしに根付いたようなイベントがあると楽しいと思います。そういうことを率先的にやってらっしゃる方たちもいますが、そういう情報はなかなか入りづらかったり、すごくコアなものだったりするので、何か小さなものに特化して集いあうようなもの、年間を通じてやっていくとどうなのかと、いつも探すんです。例として、駒木野庭園の古民家を使ったワークショップを月1回やっていて、高尾駅から駒木野庭園までの間のせせらぎを聞きながら行くというようなことしていると、そういうところに魅力を感じているほかの団体が何かをしていたりするのが見えてくるんです。何か小さいことでも、そういうことで郷土資料館と連携して、いつかそういうものができるようになればなど、夢ですけども、個人的に考えたりします。
事務局	郷土資料館としての開催ではないのですが、本庁の文化財担当では、年に4回「文化財見て歩き」というイベントをやっています。ちょうど先週、家康に絡めて市内の関連

する場所を訪れる内容で開催したところ、かなり好評で、65人ぐらい集まり、3グループに分けて歩きました。また今年度、資料館では帝京大学と連携して、絹の道あたりの散策マップの作製に取り組もうとしています。さらに、歴史・郷土ミュージアムに移った際には、「文化財見て歩き」のようなイベントの実施回数をもう少し増やして、歩いて市内の魅力を感じていただける機会を多くしていきたいと思っております。

菊池委員 地域に詳しいボランティアさんたちとツアーを組んだり、双方でコミュニケーションが取れると意外なことが起こったり、それはすごく手間なことですが、それが楽しかったりするのです、ぜひよろしくをお願いします。

2. その他

鎌倉会長 議題(2)その他に移ります。事務局から順にお願いします。

- ・令和4年度(2022年度)八王子「宇宙の学校」その他イベントの実施結果について(映像資料あり)
- ・八王子駅南口集いの拠点整備について(映像資料あり)
- ・八王子ミライテラス市民ワークショップについて

— 事務局職員による説明 —

鎌倉会長 質問や確認などはございますでしょうか。

大畑委員 宇宙の学校について、令和4年度はすごく好評で、今年度はスクーリングの回数を4回に増やして実施ということですが、定員は増やせるのですか。

事務局 定員は増やしています。令和4年度が40組で申込者が210組、倍率は5倍程度でしたが、今年度定員を100組に増やして、それでも300人ぐらいの申込みがあり、大体3倍でした。今は抽せんが終わって、第1回目は6月18日に実施いたします。また、会場は八王子学園と、今年度から東京高専でもできることになりまして、2か所で計4回ずつ実施いたします。

國方副会長 宇宙の学校は、今、スクーリングに全て包括されているように見えますが、本来は家庭学習を推進するのが趣旨のはずなんですね。スクーリングを定期的に行って、その間に家庭で自由研究をやって、それを最終回に発表するようなプログラムだと理解しているのですが、今までは3回、

	<p>今年度は4回だと、どう組み込まれるのでしょうか。</p> <p>事務局 昨年度はコロナもあって、各3回実施し、スクーリングとスクーリングの間の家庭学習はやってもらったのですが、発表会はやりませんでした。今年度に関しては、その発表会も含めて回数は4回、最終の4回目に発表というところまでやろうということになりました。</p> <p>國方副会長 よかったです。そこも含めた次回の声というか、参加してどうだったかが聞ければうれしいと思いました。あと、先ほど言った、サポートされた中学生の方がこれに参加してどうだった、という感想などはありましたか。</p> <p>事務局 レポートがありまして、その中で2名の方に感想を書いていただいたところ、創価大学の学生の方は教育課程を履修していきまして、小さい子供と接する中で子供を観察して、どのような助けが必要なのか、どこを見守るべきで、どこを親御さんにサポートをしてもらうのか、自らも勉強になりましたという感想がありました。</p> <p>また、八王子学園の中学生の方も、すごく楽しく参加できて、小さい子に教えるのはなかなか難しかったけれど、すごく勉強になりました、ということも書かれています。</p> <p>実際にやるのは午後からですが、その前にボランティアの方に午前中同じものをつくってもらうとき、自分ではつくれるけれど、やはりそれを子供に分かりやすく教えるのが難しい、勉強になったという声も聞かれています。</p> <p>國方副会長 こういった市民が参画して一緒につくり上げるプログラムは非常にいいことだと思うので、ぜひこれが広がっていくといいと思います。</p> <p>鎌倉会長 他にはよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">— 発言者なし —</p> <p>鎌倉会長 それでは、最後に次回の開催予定をお願いします。</p> <p>事務局 次回開催は、11月上旬頃を予定しております。日程調整については8月終わり頃を目途に改めてご案内いたしますので、よろしく願いいたします。</p> <p>鎌倉会長 以上で、令和5年度第1回八王子市博物館協議会を終了いたします。</p> <p style="text-align: center;">— 閉会 —</p>
--	---

